

政策番号	21	政策分野	土地利用と都市機能配置
------	----	------	-------------

基本方針	人口減少や少子高齢化，低炭素社会実現への対応などの社会動向を見通し，都市を効率的に経営する視点を持ちながら，「保全・再生・創造」の都市づくりを基調として，地域ごとの特性を生かすための多彩で個性的，かつ秩序ある土地利用の展開や，地球環境への負荷の少ない集約的な都市機能の配置を図ることにより，さまざまな都市活動を持続的に展開することのできる都市を実現する。
------	---

担当局	都市計画局	共管局	
-----	-------	-----	--

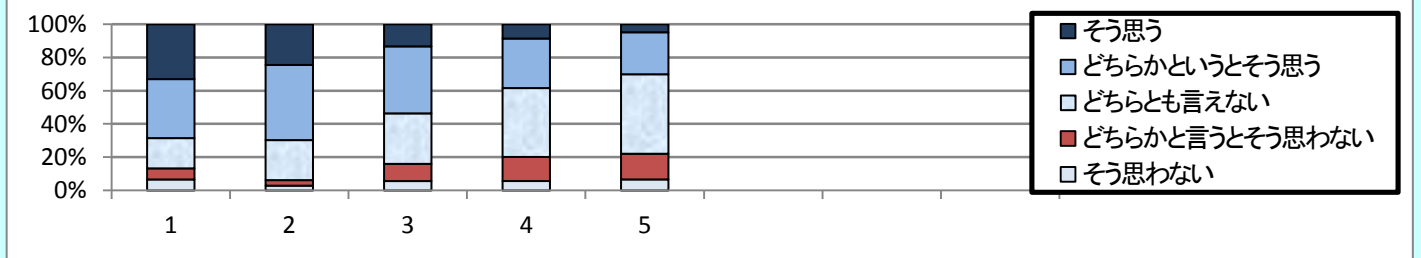
政策の評価

1 客観指標評価

指標名		23年度 評価値	32年度 目標値	23 年度	24 年度	25年度評価				
						前回値	最新値	目標値	達成度	評価
1	交通拠点周辺の集客的土地利用の割合(%)	28.2	29.0	c	c	28.2	28.3	28.7	98.6%	c
2	中心商業・業務地区の販売額シェア(近畿)(%)	1.65	1.72	b	b	1.72	1.65	1.72	95.9%	b
3	製造品出荷額等に占める南部地域の割合(%)	56.6	59.0	a	a	56.6	55.3	55.3	100.0%	a
4	地区計画, 建築協定及び景観協定の締結数(件)	126	155	c	e	126	127	4件増	25.0%	d
5	景観・まちづくりに関する相談件数(件)	1,213	-	-	a	1,213	994	736件	135.1%	a
6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
客観指標総合評価					b	b				b

2-1 市民生活実感評価

番号	設問	評価		
		23年度	24年度	25年度
1	買物などの日常生活には，徒歩や自転車，公共交通が便利である。	b	b	a
2	田の字地域(河原町通，烏丸通，堀川通，御池通，四条通，五条通の幹線道路沿道地区)や京都駅の周辺は，にぎわいのある魅力的な地域である。	b	b	a
3	京都のまちの南部地域が発展してきている。	b	b	b
4	身近な地域が魅力的になっている。	c	c	c
5	身近な地域で，自主的なまちづくり活動が進んでいる。	c	c	c
6	-	-	-	-
7	-	-	-	-
8	-	-	-	-
市民生活実感調査総合評価		b	b	b



2-2 政策の重要度(27政策における市民の重要度)

23年度		24年度		25年度	
順位	%	順位	%	順位	%
27	5.3%	27	4.7%	26	69.5%

3 総合評価

B	政策の目的がかなり達成されている		
【客観指標】・駅周辺の商業・業務等の集客施設の割合は増加しているが、昨年度と同様に、c評価であった。 ・中心商業・業務地区の販売額シェアについては、現況値の把握が複数年おきであることから、今年度については、昨年度の評価結果のままとしている。なお、京都駅周辺では、イオンモール京都やヨドバシカメラが、田の字地域では、京都マルイやラクエ四条烏丸等の大規模商業施設ができる等、田の字地域を始め中心商業地やその周辺で、にぎわい創出が進んでいる。 ・らくなん進都など、京都の南部地域へのものづくり企業の集積状況を表す製造品出荷額割合については、最新値が現時点では国において未公表のため、今年度については、昨年度の評価結果のままとしている。 ・地区計画、建築協定及び景観協定の締結数については、地区計画が2件増だったが、建築協定は有効期間満了による1件の失効があったため、合計すると前回数値から1件増となり、d評価となった。 ・景観・まちづくりに関する相談件数については、都市景観・まちづくりセンターによる講座の開催やまちづくりに関する情報発信等の取組の結果、市民のまちづくりに対する意識が高まってきており、平成23年度よりは減少したものの、平成19年度以降の中でも高い相談件数となり、a評価となった。		24年度	B
【市民の実感】・市民の実感については、昨年度と比較し、日常生活での自動車以外の移動手段での便利さ、京都駅周辺や「田の字地区」等でのにぎわいに対する評価が高くなった。 ・身近な地域での魅力づくりや自主的なまちづくり活動については、「どちらとも言えない」との回答が多数となっているものの、それ以外の設問については、かなり肯定的に評価されている。		23年度	B
【総括】・日常生活の利便性や商業・業務地区のにぎわいなど都市機能の配置に関しては、取組が一定進捗しており、総じて取組に見合った市民の実感を得た。 ・こうしたことを総合的に勘案し、この政策の目的は、かなり達成されていると評価する。			
※田の字地区:河原町通、烏丸通、堀川通、御池通、四条通、五条通の幹線道路沿道地区			

今後の方向性の検討

＜この政策を構成する施策とその総合評価＞

施策番号	施策名	評価結果			参照ページ
		23	24	25	
2101	便利でくらしやすい生活圏づくり	B	B	B	217
2102	商業・業務機能が集積したにぎわいのある魅力的なまちづくり	B	B	A	219
2103	創造を続ける南部地域のまちづくり	C	D	C	221
2104	市内各地における個性豊かで魅力的なまちづくり	C	D	C	223
2105	まちづくりを支えるしくみづくり	C	C	C	225

＜今後の方向性＞

- ・便利で暮らしやすい生活圏や、にぎわいのある魅力的な商業・業務地域の形成に向け、都市計画手法を活用し、良好な住宅環境への誘導、公共交通ネットワークを最大限に活用するための商業・業務機能の集積を図る。
- ・らくなん進都をはじめとする南部地域を京都の新たな活力を担う地域とするため、企業集積の促進や交通利便性の向上、快適な都市環境の実現を目指した取組を推進する。
- ・個性豊かで魅力的なまちの創出や、地域の特性に応じた自主的なまちづくりに向け、地域の資源を生かしたまちづくりを進めるとともに、市民、事業者等が取り組むまちづくりへの支援を行う。
- ・地域ごとに魅力があり、持続的な都市活動を支えるエコ・コンパクトな都市の実現に向け、保全・再生・創造の土地利用を基本に、京都の歴史性や景観など、これまで引き継がれてきた地域ごとの特性を生かし、秩序ある土地利用や集約的な都市機能の配置を図る。

政策名		21	土地利用と都市機能配置					
指標名		交通拠点周辺の集客的土地利用の割合（％）						
担当部室		都市企画部		連絡先	2 2 2－3 5 0 5			
1 指標の説明								
地下鉄駅及び京都市都市計画マスタープランに位置付けのある拠点駅周辺（500m程度）エリアにおける建物延床面積合計のうち、商業・業務等の集客施設の延床面積合計の占める割合								
2 指標の意味			3 算出方法・出典等					
便利でくらしやすい生活圏づくりに向けて、交通拠点周辺の集客的土地利用の割合を示す指標			出典：事業担当課調べ					
4 数値								
10年後の（平成32年度）目標値		平成23年度評価値	平成32年度目標値	根拠				
		28.2	29.0	原則、平成17年度の現況値28.4％を維持することとし、その数値を上回るよう努力する				
	前回数値 22年度	最新数値 23年度	推移	単年度目標値				
				数値	根拠	達成度		
数値	28.2	28.3	0.1ポイント増加	28.7	原則、平成17年度の現況値28.4％を維持することとし、その数値を上回るよう努力する。	98.6％		
	全国順位	中長期目標			備考	最新数値は前年度のデータを用いて算出するため、1年遅れとなっている。 （「4 数値」の「平成23年度評価値」は平成21年度の数値を用いて算出）		
		数値	目標年次	達成度			根拠	
数値		28.7	27年度	98.6％			平成32年度に29％になることを目指して設定	
5 評価基準		6 基準説明				7 評価結果		
最新数値が a：29.0％以上 b：28.4％以上29.0％未満 c：23.9％以上28.4％未満、ないし最新数値が前年度数値を上回った場合 d：19.4％以上23.9％未満 e：19.4％未満		・平成32年度目標値29.0％以上をa評価 ・平成17年度現況値28.4％以上をb評価 ・市域全体の実績値19.4％（20年度）を最低値として、それ未満をe評価 ・最低値と現況値の中間値23.9％を境にc評価・d評価 ・以上にかかわらず、拠点駅周辺エリアにおける商業等の集客施設の延べ床面積合計の占める割合は数箇年を経て達成していくものであるから、前年度数値を上回った場合はc評価				23	24	25
						C	C	C

指標名		中心商業・業務地区の販売額シェア（近畿）（％）						
担当部室		都市企画部		連絡先	2 2 2－3 5 0 3			
1 指標の説明								
田の字地域や京都駅周辺などの都心部の、中心商業・業務地区における商品販売額の近畿地方に占めるシェア								
2 指標の意味			3 算出方法・出典等					
にぎわいあるまちづくりに向けて、中心商業・業務地区における消費の状況を示す指標			出展：事業担当課調べ（商業統計調査）					
4 数値								
10年後の（平成32年度）目標値		平成23年度評価値	平成32年度目標値	根拠				
		1.65	1.72	平成14年度以降で最も高い数値				
	前回数値 14年	最新数値 19年	推移	単年度目標値				
				数値	根拠	達成度		
数値	1.72	1.65	0.07ポイント減	1.72	平成14年度の数値（平成14年度以降で最も高い数値に設定）	95.9％		
	全国順位	中長期目標			備考	商業統計調査は5年に1度実施される調査であるため、最新数値は平成19年のものとする。なお、次回調査は平成26年度に実施される。		
		数値	目標年次	達成度			根拠	
数値								
5 評価基準		6 基準説明				7 評価結果		
最新数値の単年度目標値に対する達成度が a：100％以上 b：90％以上100％未満 c：80％以上90％未満 d：70％以上80％未満 e：70％未満		・単年度目標値を達成すればa評価 ・以下10％刻みでb～e評価 最高値 1.72％（平成14年）				23	24	25
						b	b	b

政策名		21		土地利用と都市機能配置								
指標名		製造品出荷額等に占める南部地域の割合（％）										
担当部室		都市企画部		連絡先		2 2 2－3 5 0 3						
1 指標の説明												
市域全体の製造品出荷額等に占める南部地域企業の製造品出荷額等の割合												
2 指標の意味												
南部地域においてものづくり企業が集積していることを示す指標												
3 算出方法・出典等												
出典：事業担当課調べ（工業統計調査）												
4 数値												
10年後の（平成32年度）目標値		平成23年度評価値	平成32年度目標値	根拠								
		56.6	59.0	過去10年間（平成11～20年）で最も高い数値に設定								
前回数値		最新数値		推移	単年度目標値							
21年		22年			数値	根拠	達成度					
数値		56.6		55.3		1.3ポイント減	55.3	平成32年時点の目標値59％を達成するため、平成20年時点の54.3％から毎年0.5％ずつ増加させる。	100.0%			
全国順位		中長期目標				備考	工業統計調査：製造業に属する事業所を対象に毎年実施される調査。（平成23年の当該調査は、平成24年の経済センサス活動調査において必要な事項を把握することとしているが、国において数値が現時点では未公表のため、最新数値・目標値ともに平成22年の数値を記載）					
		数値	目標年次	達成度	根拠							
数値												
5 評価基準							6 基準説明		7 評価結果			
最新数値が a：単年度目標値以上 b：単年度目標値と平均値の間 c：平均値 d：平均値と最低値の間 e：最低値以下							当該指標は過去からの推移によって評価されるべきものである。単年度目標値以上のものをa、過去10年間の平均値以上をc、最低値以下をeとし、各基準を設定した。 平均値 49.8％（平成11～20年） 最低値 37.7％（平成11年）		23		24	25
									a		a	a

指標名		地区計画、建築協定及び景観協定の締結数（件）											
担当部室		都市企画部		連絡先		2 2 2－3 5 0 3							
1 指標の説明													
地区計画、建築協定及び景観協定の締結数													
2 指標の意味													
地域の魅力の高まりにつながる地域まちづくり活動の活性化状況を示す指標													
3 算出方法・出典等													
出典：事業担当課調べ													
4 数値													
10年後の（平成32年度）目標値		平成23年度評価値	平成32年度目標値	根拠									
		126	155	全学区（222）で平均一つの取組を目指しており、32年度までの目標値は155件とする。									
前回数値		最新数値		推移	単年度目標値		達成度						
23年度		24年度			数値	根拠							
数値		126		127		1件増	4件増	平成32年度の目標達成のために当年度達成すべき数値（今後10年間で155件の締結を達成するため、年平均3.2件以上締結）	25.0%				
全国順位		中長期目標				備考							
		数値	目標年次	達成度	根拠								
数値													
5 評価基準								6 基準説明		7 評価結果			
前回数値と比較し、 a：4件以上増 b：3件増 c：2件増 d：1件増 e：0件以下								・単年度目標値を達成すればa評価 ・以下1件刻みでb～e評価 ※なお、協定の更新に伴い複数の地区を統合した場合、地区数が減少することになるが、協定の区域は変わらないため、地区数の減はカウントしない。		23		24	25
										c		e	d

政策名	21	土地利用と都市機能配置					
指標名	景観・まちづくりに関する相談件数（件）						
担当部室	都市企画部		連絡先	2 2 2－3 5 0 3			
1 指標の説明							
景観・まちづくりセンターで受け付けた景観・まちづくり活動相談及び京町家なんでも相談の合計件数							
2 指標の意味							
市内各地域における地域まちづくりの機運の高まりを示す指標							
3 算出方法・出典等							
出典：事業担当課調べ							
4 数値							
10年後の（平成32年度）目標値		平成23年度評価値	平成32年度目標値	根拠			
		1,213	-	-			
	前回数値	最新数値	推移	単年度目標値			
	23年度	24年度		数値	根拠	達成度	
数値	1,213	994	219件減	736件	平成19年度以降の年間相談件数の平均値	135.1%	
	全国順位	中長期目標			備考		
		数値	目標年次	達成度			根拠
数値							
5 評価基準							
目標数値と比較し、 a：130%以上 b：110%以上130%未満 c：90%以上110%未満 d：70%以上90%未満 e：70%未満							
6 基準説明							
・目標値に対する達成度が100%の場合をc評価の中心と設定 ・20%刻みでa～e評価							
7 評価結果							
23		24		25			
-		a		a			